

宝篋印塔



指定区分	国指定重要文化財(建造物)
読みかた	ほうきょういんとう
所在地	倉敷市真備町辻田
指定年月日	昭和40年5月29日
解説	総高3.3mの花崗岩製の宝篋印塔。正和3年(1314)の銘があり、鎌倉時代後期の造立である。基礎、塔身、笠、相輪の各部ともそろっており、在銘の宝篋印塔としては県下で最も大きい。この地が堂応寺の地名を残しているところからみると、その寺内にあったらしい。この付近は鎌倉時代に蘭東荘[そのひがしのしょう]という皇室領であったが、南北朝時代に山城国長福寺領として寄進されている。
アクセス方法	
公開状況	見学自由
設備	
備考	